



豊かな森の証 ギンリョウソウ



6月になるとブナやミズナラの森の小道で、落ち葉の中から立ち上がる蠟細工のような白い植物が、そこかしこで見られるようになります。首をもたげた龍に見立ててギンリョウソウ(銀龍草)と呼ばれていますが、薄暗い林床にうつむいて立つ白い姿からユウレイタケ(幽霊茸)という別名もあります。また中国では「水晶蘭」と呼ばれるそうです。人によって綺麗な花だと思うか、気味の悪い花だと思うか、意見が分かれるかもしれませんね。

全体が白いのは葉緑素を欠いているため、栄養は周辺のキノコから得ています。普段は土の中で過ごし、花の時期だけ地上に現れます。そして森林に棲むマルハナバチが下向きに咲いた花に潜り込んで受粉を助け、その後、森の小さなゴキブリたちができた液実を食べて種をまき散らすのだとか。なかなか興味深い生態です。

ギンリョウソウは落ち葉がたっぷり積もったふかふかの土で育つため、豊かな森を証明する植物でもあります。



花言葉は「はにかみ、そっと見守る」 大山の森でギンリョウソウを見つけてみませんか。

■ 下山キャンプ場と豪円山キャンプ場 使用禁止のお知らせ ■

両キャンプ場は、改修工事のため2020年中は使用できません。

駐車場も工事関係者以外は使用禁止です。

周辺のキャンプ場をご使用いただくようお願いいたします。

【大山周辺のキャンプ場】※有料

- 森の国 いこいの森キャンプ場 (大山町赤松)
 - 夕陽の丘 山香荘 神田キャンプ場 (大山町加茂)
 - FBI DAISEN-First class Backpackers Inn. (伯耆町小林)
 - ODACG 大山オートキャンプ場 (伯耆町福兼)
 - 休暇村奥大山 鏡ヶ成キャンプ場 (江府町御机鏡ヶ成)
- ※詳細は各キャンプ場へ直接お問い合わせください。

春期 自然ふれあい事業 活動報告

○旅するチョウ・アサギマダラ観察会

開催日：6月20日(土)

開催地を変更して榎水高原でアサギマダラの観察会を行いました。気温18度、霧がときどき下りてくる涼しい天候のもと、森の散策道に群生するヨツバヒヨドリに集まるアサギマダラを捕獲し、標識して放ちました。



※4月23日に予定されていた「鏡ヶ成山開き・擬宝珠山登山」、5月23日に予定されていましたが「榎水高原・アサギマダラ観察会」は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため中止になりました。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。



注意！スズメバチ



キャンプや登山など自然の中で過ごすことが多い夏は、スズメバチと遭遇しやすいシーズンです。刺されると死亡する危険性もある恐ろしい生き物ですが、人間を狙って襲うわけではありません。刺される可能性があるのは、巣に近づきすぎたときや触ったときです。それ以外でスズメバチから先に人間に攻撃してくることはありません。

スズメバチの幼虫は、他の昆虫を食べる肉食性で、成虫は主に狩りのために飛び回っています。成虫はエネルギー源として樹液や花に集まりますが、蜜を貯めることはありません。

大山で遭遇することの多いスズメバチを私の体験とともにご紹介します。

※危険度順

	<p>オオスズメバチ:世界最大級のスズメバチです。大山周辺ではクマバチと呼んでいます。地中に巨大な巣を作り、巣に近づくと門番バチが顔の前まで飛んできて巨大な牙でカチカチと警戒音を立てて威嚇します。それを無視して進むと門番バチから警戒フェロモンを吹きかけられ、それを合図に巣から無数のハチが飛び出してきて襲ってきます。刺されたときの痛みは尋常では無く、とても危険です。刺された場所を中心にひどく腫れ上がり、ずきずきした痛みは数日続きます。その後は猛烈なかゆみで5日ぐらい悩まされます。最初の警戒音を聞き逃さないようにしましょう。</p> <p>働きバチサイズ:27~37ミリ 危険度:★★★★★</p>
	<p>キロスズメバチ:黄色味の強い中型のスズメバチです。大山周辺ではアカバチと呼んでいます。雨が当たらない岩の庇や太い枝の下に巨大なボール状の巣を作ります。攻撃性は高く、巣から5メートル以内に近づくと門番バチが警告のために飛んできます。目の前で大きく横ゆれして飛びますからそれ以上進まないでください。秋は獲物の昆虫が少なくなり気が荒くなっていますから特に注意が必要です。一番被害の多いハチです。</p> <p>働きバチサイズ:17~25ミリ 危険度:★★★★★</p>
	<p>コガタスズメバチ:オオスズメバチより一回り小さめのスズメバチで、茂みの中にボール状の巣を作ります。攻撃性は低く、人が近づいても巣に張り付いてじっとしています。そのため巣があることに気づかず襲われるパターンが多いスズメバチです。私も庭木を剪定中に巣を見つけて肝が冷えたことがあります。襲われたらすぐ逃げましょう。攻撃性は低いのでしつこく追ってくることはありません。</p> <p>働きバチサイズ:22~27ミリ 危険度:★★★</p>
	<p>ヒメスズメバチ:オオスズメバチに次ぐ大きさのスズメバチです。模様がオオスズメバチそっくりですが尻尾の先が黒いのが特徴です。地中や朽木の中に小型の巣を作ります。攻撃性は日本のスズメバチの中で一番弱く、巣に近づいたぐらいでは攻撃してきません。登山中、腰かけた朽木から大型のスズメバチが数匹飛び出してきて慌てて逃げたことがあります。襲ってこなかったのに戻って確認するとこのハチでした。</p> <p>働きバチサイズ:25~36ミリ 危険度:★★</p>
	<p>クロスズメバチ:小型の黒いスズメバチです。地中に大きな巣を作ります。幼虫が中部地方の珍味「ハチの子」で、養殖されることもあります。かわいい顔をしたスズメバチですが意外と攻撃性は強く、巣に近づきすぎると襲ってくるそうなので気を付けてください。よく見かけるのに巣を見つけたことはありません。</p> <p>働きバチサイズ:11~18ミリ 危険度:★</p> <p>※写真はすべてスズメバチ図鑑 HP よりお借りしました。</p>

■アナフィラキシーショックとは■

ハチに刺された時に気を付けないといけないのは、アナフィラキシーショックです。

アナフィラキシーショックとは、何かしらのアレルゲンなどに対して全身性のアレルギー反応が引き起こされてしまい、血圧の低下や意識状態の悪化が出現した状態を指します。

アナフィラキシーショックを起こすと、全身各所にさまざまな症状が現れます。全身にじんましんが生じたり、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛が生じることもあります。

アナフィラキシーショックに至るまでの時間は、体質や体調などによって異なりますが、ハチ毒によるアナフィラキシーショックの経過は特に早い傾向があり、蜂に刺されてから数分の経過で心停止に至ることもあります。

ハチ毒でアナフィラキシーショックが生じた際には、迅速な治療が必要です。少しでも疑いがある場合には、救急車を呼んでください。

※メディカルノート HP より引用しました。

みどりとかワセミ



木々の「みどり」が美しい季節がやってきました。

「みどり」は漢字で「緑」、「碧」、「翠」と書くことができます。「緑」は一般常用漢字で緑色全般を表します。「碧」は「あお」とも読まれますが、限りなく青に近い緑色、または緑に近い青色のこと。「翠」は鮮やかな青緑のことで、本来、カワセミのメス(写真)を表す漢字です。鮮やかな青緑の羽の色が色名に変わったとか。

ちなみに「翡」はカワセミのオスのことで、鮮やかな青を指します。宝石の「翡翠(ひすい)」はカワセミの羽の色になぞらえて呼ばれるようになったのではないかとされています。実際にはオスメスとも同じような美しい羽の色をしていますが、オスは上下のくちばしが黒なのに対してメスは下のくちばしが赤いので見分けることができます。

カワセミは全国の平地や山地の池、川、湖沼で小魚等を捕食するスズメサイズの鳥で、大山ではすそ野を流れる日野川でよく見られます。カワセミと鮮やかな「みどり」を楽しみに大山に来てみませんか。

大山で見られるカワセミの仲間

ヤマセミ：ハトサイズの大型のカワセミの仲間です。阿弥陀川や加勢蛇川の中流あたりに多いようです。ケレツケレツと鳴きます。白黒の鹿の子模様のためカノコショウビンという別名もあります。ちなみにショウビンとは「翡翠」の別の読み方でカワセミ類のこと。



アカショウビン：ヤマセミより一回り小型の赤いカワセミの仲間です。初夏に南方から渡ってきます。溪流沿いの森でカエルやサワガニなどを捕食し、雨が降りそうな天気の際に「キョロロロ」と悲しげに鳴くので、「雨乞い鳥」の異名があります。チョコボールのキャラクター「キョロちゃん」のモデルがこの鳥とか。声は耳にしても見つけることが難しい鳥です。

ーイベント情報（9月～11月）ー

■自然公園財団のイベント

○大山・秋の花観察会

開催日：9月19日(土) 9:00～12:00

会場：豪円山周辺

集合場所：自然公園財団事務所前

参加費：1000円



8月が過ぎると大山に早々とは秋がやってきます。秋の気配を探して豪円山周辺の草原や林を歩き、花々を楽しみます。

定員：15名



○秋の溪畔林を歩く。山陰の奥入瀬「木谷沢」

開催日：10月28日(木) 9:00～12:00

会場：江府町大平原 木谷沢溪流

集合場所：奥大山スキー場駐車場

参加費：1000円



紅葉に染まる木谷沢溪流を散策。奥大山の秋を堪能します。巨木の森の中を穏やかに流れる清冽な川や苔むした岩に癒されるひと時です。

定員：15名

○奥大山古道ウォーク(共催事業) 詳細未定

開催日：11月8日(日) 8:30～15:30頃

会場：江府町鍵掛峠・御机・下蚊屋

集合場所：エバーランド奥大山前

参加費：2000円

※詳しくは江府町のホームページをご覧ください。

募集開始は10月ごろです

後醍醐天皇ゆかりの団子汁と伝統の下蚊屋荒神神楽を堪能しながら紅葉の奥大山古道を歩きます。

●お問い合わせ先：

奥大山古道保存協議会事務局(0859-75-6610)

問い合わせ対応時間：平日9:00～17:00

定員：100名予定

※上記のイベントは新型コロナウイルス感染の状況によっては、中止または内容の変更があります。

■周辺のイベント■

新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国的にたくさんのイベントが中止や延期されています。

毎年、お盆のころに開催されていました大山寺の「お盆の大献灯」も、

7月上旬に情勢を見ながら詳細を決定することになりました。

また同時に開催していた鳥取大山「和傘灯り」は10月23～25日に延期します。

詳しくは大山観光局(0859-52-2502)まで



※5月15日の緊急事態宣言解除、6月19日の都道府県をまたぐ移動自粛解除を受け、大山では徐々に平常の賑わいを取り戻しつつあります。まだ完全にはコロナウイルスが解決されておらず、緊張を解くことはできないものの、国立公園大山を楽しんでいただけるよう努力してまいります。ぜひ、大山へお越しくださいませ。

一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

